

7農総試第102-7号  
令和7年10月1日

関係各位

愛知県農業総合試験場長

病害虫発生予察情報について（送付）

このことについて、下記のとおり発表しましたので、参考にしてください。

記

令和7年度病害虫発生予報第7号（10月）

担当 環境基盤研究部病害虫防除室  
電話 0561-41-9513  
ファックス 0561-63-7820

## 令和7年度病害虫発生予報第7号（10月）

令和7年10月1日  
愛知県

### 普通作物

#### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ダイズ	吸実性カメムシ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 9月下旬の水田におけるミナミアオカメムシの発生量は平年並 10月の気温は高い	± ± +

#### ・防除対策

##### [ダイズ・吸実性カメムシ類]

本日発表の「吸実性カメムシ類情報第2号（ダイズ）」を参照してください。

#### ・留意事項

ハスモンヨトウの発生がダイズにおいてやや多い状況です。詳細は、本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。

ニカメイガや、イネ縞葉枯病を媒介するヒメトビウンカは、水田畦畔の雑草や水稻の刈り株等で越冬します。また、イネ白葉枯病の病原菌は、被害わら、もみで越冬し、次作の発生源となります。越冬量を減らすため、水稻の収穫後の耕うんを始めとする秋期管理を実施しましょう。詳細は、本日発表の「水稻の秋期管理情報第1号」を参照してください。

## 果樹

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ナシ	黒星病	少ない	県全域	9月下旬の発生量は少ない 10月の降水量はほぼ平年並	－ ±
カキ	炭疽病	やや少ない	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない 10月の降水量はほぼ平年並	－ ±
カキ ウンシュウミカン	カメムシ類	平年並	県全域	予察灯における誘殺数は平年並 フェロモントラップにおける誘殺数は平年並 9月下旬のカキにおける被害果率はやや少ない 10月の気温は高い	± ± － +

### ・留意事項

ブドウべと病が発生しているほ場では、次作への伝染源を減らすため、落葉をほ場外に持ち出すなど適切に処分しましょう。

モモせん孔細菌病の発病葉が目立つほ場があります。次作への伝染源を減らすため、秋期防除を実施しましょう。

カンキツなどでチャバネアオカメムシ、ツヤアオカメムシが多発しているほ場が確認されています。ほ場をよく観察し、発生を確認したほ場は、収穫前日数に注意して薬剤で防除しましょう。また、台風通過による強風が発生した場合、突然、果樹園へ多数飛来する可能性がありますので注意しましょう。

モモ園でクビアカツヤカミキリの被害が拡大しています。被害樹からは、フラス（幼虫のフンと木くず、樹液等が混ざったもの）が排出されます。詳細は、7月2日発表の「クビアカツヤカミキリ情報第1号」を参考にしてください。ほ場をよく観察し、フラスを確認した場合は、幼虫を対象に防除を行うとともに、農業総合試験場病害虫防除室もしくはお近くの農業改良普及課に連絡をお願いします。また、発生地域や近隣の市町村で発生が確認されている園地では、次年度以降、成虫が飛来する可能性があるため、6～8月にかけて成虫の防除を検討しましょう。

## 野菜

### ・予報内容

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
ハクサイ	べと病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の降水量はほぼ平年並	± ±
	アブラムシ類	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
キャベツ	黒腐病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の降水量はほぼ平年並	＋ ±
	オオタバコガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘殺数は多い 10月の気温は高い	－ ＋ ＋

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報へ の影響
キャベツ	シロイチモジ ヨトウ	平年並	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 10月の気温は高い	－ ± ＋
ハクサイ ・キャベ ツ	コナガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はハクサイほ 場でやや多い、キャベツほ場で 平年並 フェロモントラップにおける誘 殺数はやや多い 10月の気温は高い	＋～± ＋ ＋
	ハイマダラノ メイガ	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はハクサイほ 場でやや多い、キャベツほ場で 平年並 10月の気温は高い	＋～± ＋
トマト (施設)	葉かび病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	すすかび病	やや少ない	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない	－
	黄化葉巻病	平年並	県全域	9月下旬の発生量はやや少ない 10月のコナジラミ類の予想発生 量はやや多い	－ ＋
	コナジラミ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量はやや多い 10月の気温は高い	＋ ＋
イチゴ (施設)	うどんこ病	平年並	県全域	9月下旬の発生量は平年並	±
	炭疽病	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 7月下旬の育苗ほでの発生量は 平年並 10月の気温は高い	± ± ＋
	ハダニ類	やや多い	県全域	9月下旬の発生量は平年並 10月の気温は高い	± ＋
野菜共通	ハスモンヨト ウ	やや多い	県全域	9月下旬のキャベツにおける発 生量はやや少ない 9月下旬のダイズにおける発生 量はやや多い フェロモントラップにおける誘 殺数は平年並 10月の気温は高い	－ ＋ ± ＋

・防除対策

〔キャベツ・黒腐病〕

本日発表の「キャベツ黒腐病情報第1号」を参照してください。

〔キャベツ・オオタバコガ〕

ディアナSC、ベネビアODなどで防除しましょう。9月17日発表の「オオタバコガ情報第4号」も参考にしてください。

〔ハクサイ、キャベツ・コナガ〕

ディアナSC、プロフレアSCなどで防除しましょう。薬剤感受性の低下を防ぐため、系統の異なる薬剤でローテーション散布しましょう。

**[ハクサイ、キャベツ・ハイマダラノメイガ]**

成長点部分を食害されると、正常な結球が望めなくなるため、薬剤防除しましょう。  
9月2日発表の「ハイマダラノメイガ情報第1号」を参考にしてください。

**[トマト・黄化葉巻病、コナジラミ類]**

本日発表の「コナジラミ類情報第2号（トマト）」を参照してください。

**[イチゴ・炭疽病]**

発病株や周辺株は速やかに抜き取って、ほ場外に持ち出し、適切に処分しましょう。ベルコートフロアブルなどを用いて防除しましょう。

**[イチゴ・ハダニ類]**

ダニオーテフロアブルや気門封鎖剤等で防除しましょう。天敵や訪花昆虫を放飼している場合は、それらへの影響を考慮して農薬を選びましょう。

**[野菜共通・ハスモンヨトウ]**

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。

**・留意事項**

**アブラナ科野菜**の黒腐病、軟腐病等の細菌性病害は、降水量が多いと発生が増加します。また、植物体の傷は病原菌の侵入口となるので、激しい風雨によって傷ができた場合や、害虫の食害痕が多い場合も発生を助長します。台風等の悪天候が予想される場合は事前に農薬を散布するとともに、水はけの悪いほ場では排水対策をしましょう。

**キャベツ、ブロッコリー**の**黒すす病**が近年 11～12 月に多発しています。本病の発病適温は 20～25℃程度とされ、降雨及び強風により発生が助長されます。本病は下位葉から上位葉や花蕾へ伝染し、一度発生が拡大すると防除が困難となるため、注意が必要です。早期発見に努め、病徴が進行した株は処分しましょう。ブロッコリーでは一部系統の殺菌剤の感受性が低い菌株を確認していることから、薬剤選択は指導機関に相談しましょう。本病の詳細については、7月2日発表の「令和7年度病害虫発生予察特殊報第3号」及び7月16日発表の「ブロッコリー黒すす病情報第1号」を参照してください。

一部ほ場で**シロイチモジヨトウ**の発生量が多くなっています。中齢以降の幼虫では薬剤による防除効果が低い傾向にあるので、若齢幼虫期に防除を行いましょう。一部の薬剤に対して感受性低下を確認していますので、薬剤選択にあたっては指導機関に相談しましょう。8月1日発表の「令和7年度病害虫発生予察注意報第6号」も参考にしてください。

**花き**

**・予報内容**

作物名	病害虫名	発生量 (発生時期)	主な 発生地域	予報の根拠	予報への影響
キク (露地)	ハスモンヨトウ	やや多い	県全域	野菜類のフェロモントラップにおける誘殺数は平年並 10月の気温は高い	± +
	オオタバコガ	多い	県全域	フェロモントラップにおける誘殺数は多い 10月の気温は高い	+

**・防除対策**

**[キク（露地）・ハスモンヨトウ]**

本日発表の「ハスモンヨトウ情報第2号」を参照してください。

**[キク（露地）・オオタバコガ]**

グレーシア乳剤、アニキ乳剤などで防除しましょう。9月17日発表の「オオタバコガ情報第4号」も参考にしてください。

予察灯、フェロモントラップなどの各種調査データは、ホームページ「あいち病害虫情報」(<https://www.pref.aichi.jp/site/byogaichu/investigation.html>)を参照してください。

## 参考

東海地方 1か月予報（名古屋地方气象台9月25日発表）

〈特に注意を要する事項〉

向こう1か月は気温の高い状態が続くでしょう。期間の前半は気温がかなり高くなる見込みです。

〈予想される向こう1か月の天候〉

天気は数日の周期で変わるでしょう。

〈向こう1か月の気温、降水量、日照時間の各階級の確率〉

〔気温〕 低い：10% 平年並：10% 高い：80%

〔降水量〕 少ない：30% 平年並：30% 多い：40%

〔日照時間〕 少ない：40% 平年並：30% 多い：30%